

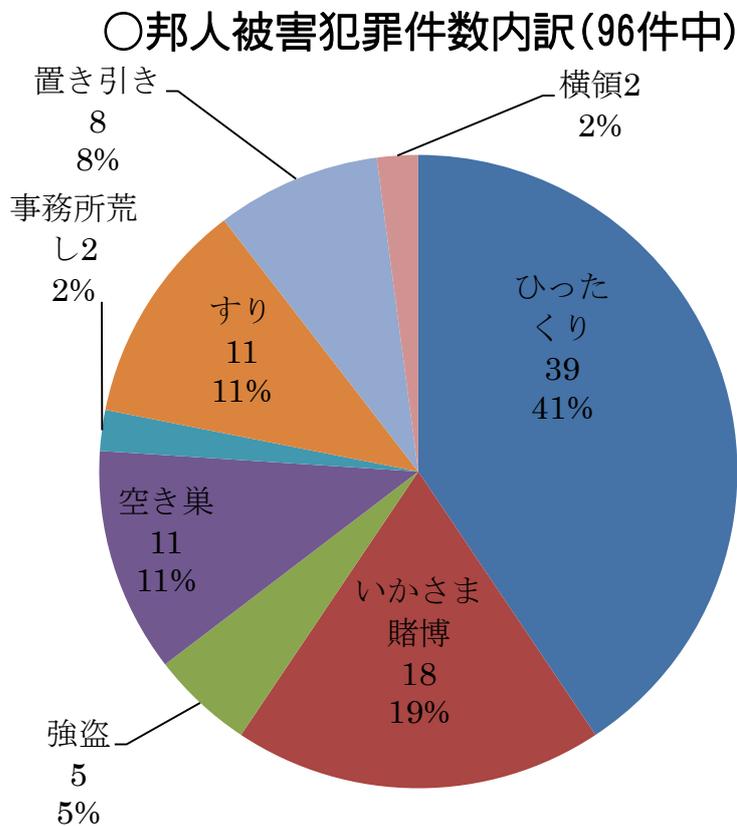
安 全 情 報

～邦人の犯罪被害状況～

「自分の身は自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

1 カンボジア国内における邦人の犯罪被害状況

昨年1年間（1月～12月）で当館が把握した邦人犯罪被害件数は **96件** ですが、この数字はあくまで当館に相談や申告があった件数であり、実際はこの数倍の被害があると思われま



3 犯罪別発生状況（96件中）

(1) ひったくり 39件（うち旅券被害28件）

- 男女別被害者数
 - ・ 男性 20人
 - ・ 女性 19人
- 在留・短期滞在別被害者数

- ・ 在留邦人 10人
- ・ 短期渡航者 29人
- 発生地域別被害件数
 - ・ プノンペン都 36件
 - ・ シェムリアップ州 2件
 - ・ シハヌークビル州 1件
- 移動形態別被害件数
 - ・ 徒歩中 21件
 - ・ トゥクトゥクに乗車中 13件
 - ・ その他 5件
- 犯行時における犯人の状況
 - ・ バイク乗車中 36件
 - ・ その他3件

(2) 侵入盗 12件

- 発生地域別被害件数
 - ・ プノンペン都 9件
 - ・ シェムリアップ州 1件
 - ・ 不明 2件
- 時間帯別被害件数
 - ・ 日中 2件
 - ・ 夜間 7件
 - ・ 不明 3件
- 在不在別被害件数
 - ・ 外出中 7件
 - ・ 在室（就寝）中 5件

(3) すり 11件

- 男女別被害者数
 - ・ 男性 7人
 - ・ 女性 4人
- 在留・短期滞在別被害者数
 - ・ 在留邦人 3人
 - ・ 短期渡航者 8人
- 発生地域別被害件数
 - ・ プノンペン都 8件
 - ・ シェムリアップ州 2件
 - ・ バッタンバン州 1件

(4) いかさまカード賭博詐欺 18件

※ いかさまカード賭博詐欺とは、東南アジア系男女が、主にプノンペ

ン都内の観光地やマーケットなどにおいて、主に邦人旅行者に対して親しげに話し掛けて自宅に食事に誘った後にいかさま賭博を持ちかけ、最終的に金品をだまし取るもの。

- 男女別被害者数
 - ・ 男性 9人
 - ・ 女性 9人
 - 在留・短期滞在別被害者数
 - ・ 在留邦人 2人
 - ・ 短期渡航者 16人
 - 発生地域別被害件数
 - ・ プノンペン都 18件
 - 国籍（自称）別被疑者数
 - ・ フィリピン人 4人
 - ・ カンボジア人 4人
 - ・ インドネシア人 2人
 - ・ マレーシア人 1人
 - ・ 不明 7人
 - 被害額について
 - ・ 最高被害額 10,000 ドル
 - ・ 平均被害額 2,850 ドル
- (5) **強盗 5件**
- 男女別被害者数
 - ・ 男性 5人
 - 在留・短期滞在別被害者数
 - ・ 短期渡航者 5人
 - 発生地域別被害件数
 - ・ プノンペン都 1件
 - ・ シェムリアップ州 2件
 - ・ バンティアイミエンチャイ州 1件
 - ・ シハヌークビル～プノンペン間 1件
 - 強盗手段別件数
 - ・ 昏睡（薬を飲ませられた） 2件
 - ・ 素手で殴られた 2件
 - ・ オートバイ運転中の暴行 1件

3 犯罪被害防止対策

(1) 路上・店内犯罪（強盗、ひったくり、すり、置き引き）被害防止対策

ア 徒歩による移動中において

- 外を歩く際は、出来る限り手荷物を持たないようにし、可能な限り両手を自由しておく。
 - やむを得ずバッグ等を所持する場合は、高価なバッグ等は避けて、バッグ本体を車道側に下げない。
 - バッグの中には高価なものは入れない。不必要に多額の現金を持ち歩かない（使用する予定の現金のみ持ち歩く）。又、ズボンの後ろポケットに財布を入れない。
 - バッグは肩に掛けているとひったくられやすく、また、タスキ掛けにした場合は取られにくい反面、強奪された際、負傷する可能性が高いことを認識する。※ タスキ掛けにした場合は両手で抱える。
 - 夜間の徒歩による外出はできる限り避け、日中でも徒歩による移動は控える。
 - 外出中は不審者や尾行者がいないか時々確認し、不審者等がいるのを確認したら、子供であっても油断せず、人が大勢いる商店等に待避してやり過ごす。
 - 女装した男性や子供による抱きつきすりも報告されていることから、近付いてくる女性や子供を安易に受け入れない。
- イ 車両（トゥクトゥク）による移動について
- 移動は出来る限り自家用車又はメータータクシーを利用し、なるべくトゥクトゥクは利用しない。モトドップ（オートバイタクシー）は交通事故の危険性もあることから極力利用しない。
 - トゥクトゥクを利用する場合には、出来れば利用したことのある信頼できるドライバーに依頼する。或いはホテルやレストランの従業員に顔見知りの運転手を呼んでもらう。
 - 乗車してからも気を抜かず、指示と異なる方向に向かっていないか常に周囲の様子を確認する。
 - 乗車中も「いつオートバイに乗った犯人にバッグをひったくられるか分からない」との意識を常に持ち、気を抜かない。
 - 乗車中、バッグを人目に付きやすい車内の椅子の上や膝上に置かない。バッグは手でしっかり抱きかかえる、または、タスキ掛けにする等の方法によりひったくり犯に狙われにくいようにする。
- ウ レストラン等の店内において
- 席を離れる時は貴重品やバッグをその場に置かないで持ち歩く。
 - バッグを隣のイス等に置いた場合、置き引きの危険性があるため、膝の上に置く、又は食事中もタスキ掛けにしたままにして身から離さないようにする。（置き忘れの防止にも役立つ。）
- (2) 侵入盗被害防止対策
- 出入口ドアに鍵（チェーンロックも取り付ける）を2個以上備え、外

出・就寝時は確実に施錠する。

- 外出中でも部屋に貴重品を出したままにしない。必ず施錠した金庫等に入れておく。
- 高層階だからと過信せず、外出・就寝時も窓を開放したままにしない。
- 入居に当たっては、警備員が常駐して防犯カメラ等の警備設備の整っている建物を選定する。

(3) いかさま賭博防止対策

- 旅行中や滞在先に知り合った見知らぬ人の誘いに応じて一緒に行動したり、宿泊や食事を一緒にしたりしない。
- 知り合った人物に安易に自分の宿泊先や連絡先、滞在先を教えない。

カンボジアは過去と比較して安全になったイメージがありますが、犯罪は依然として頻繁に発生しています。日本と比べて当地での生活には特に注意し、○危険な場所には近づかない、○夜間に人通りが少ない道の1人歩きはしない、○深夜の不要の外出は控える、○多額の現金や貴重品は持ち歩かない、○見知らぬ人を安易に信用しない、○買い物は信用のおける店を選ぶ、○ホテルの中でも安心しない、○犯罪に遭遇した場合抵抗しない、など「自分の身は自分で守る。」をモットーに防犯に心掛けて下さい。